

教科	農業	科目	生物活用	単位数	2 単位	学年	3 年	コース	ビジネス
使用教科書		生物活用(実教出版)		使用副教材等		ワークシート、視聴覚教材、実習記録簿			

目標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、園芸作物や社会動物の活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生物活用について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	生物活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	生物活用について、生物の特性を活用し生活の質の向上につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
評価方法	・定期考査 ・農業鑑定競技 ・小テスト ・実習技能の習得 ・実習記録簿	・定期考査 ・ワークシート ・実習状況の観察 ・実習記録簿	・ワークシート ・実習・授業の様子 ・実習記録簿の内容 ・農業作文

担当者からのメッセージ	・座学と実習とのつながりを意識して授業に取り組んでください。 ・実習では、特に時間厳守を意識し、服装や身だしなみを正しく整えて授業に臨むようにしてください。 また、自ら行動し(自主性)、仲間と協力して(協働)、最後まで集中して(責任感)取り組むようにしてください。 ・実習で学んだ内容は、実習記録簿に詳しく記入し、期限を守って提出することを心掛けてください。
-------------	--

学期	月	学習内容 学習のねらい	観点別評価規準
1		○オリエンテーション ・授業の進め方や実習に関する諸注意、評価の仕方などを理解する。	※(知)知識・技能、(思)思考・判断・表現、(態)主体的に学習に取り組む態度
	4	第1章 生物活用の意義と役割 1 生物活用の意義と役割 2 植物・園芸と人間生活 3 動物と人間生活 ・生物活用を学習するにあたって植物・動物が私たち身の回りにどれだけ存在しているか理解を深める。	・園芸作物や社会動物の活用の重要性を理解できているか。(知) ・生物の活用がもたらす人間への効用等に関する基礎的な知識を身に付けているか。(知) ・自分たちの生活と園芸作物・社会動物との関係について考えることができているか。(思)
	5 7	第2章 生物を活用した療法 1 生物を活用した療法 2 園芸療法 3 動物介在療法 ・世界や日本における園芸療法や動物介在療法の現状や実際を知り、理解を深める。 ・知識を活用して生活の質の向上に関する具体的な課題についても学ぶ。	・園芸療法や動物介在療法について興味・関心をもち、生物を活用した療法とその今日的な現状と課題について探求しようとしているか。(態) ・園芸療法や動物介在療法に関する資料や情報等を収集し、適切に選択し、活用できるか。(知) ・園芸療法や動物介在療法に関する基礎的な知識を身に付けているか。(知) ・園芸療法や動物介在療法に関する具体的な課題の解決や生活の向上を目指して思考を深め、基礎的な知識や技術を基に、諸課題を合理的に判断し、その過程等を表現することができる。(思)
2	9 12	第4章 動物の飼育と活用 1 イヌの飼育と活用 2 ウマの飼育と活用 ・イヌの種類や特性について理解し、その飼育管理の基礎的な知識を学習し、適切な飼育管理や活用方法について理解する。 ・ウマの特性について理解し、その飼育管理の基礎的な知識を学習する。さらに人間生活の中のイヌやウマの存在意義についても理解を深める。	・イヌの種類や特性について理解し、基本的な飼育管理について理解しているか。(知) ・ウマの特性や基本的な飼育管理について理解しているか。(知) ・社会動物の飼育管理とその活用に関する諸課題の解決や生活の質の向上を目指して思考を深め、基礎的な知識や技術を基に、諸課題を合理的に判断し、その過程を表現することができるか。(思)
3	1 2	第5章 生物活用の実際 1 交流活動の実施 ・家畜を利用して交流活動を計画し、実施する。	・生物を活用した交流活動について興味・関心をもち、交流活動の特質や交流活動そのものから、生活の質の向上を目指して探求しようとしているか。(態) ・生物を活用した交流活動に関する基礎的な知識を身に付け、社会動物の育成やこれらの活用と関連付けて理解することができているか。(知) ・生物を活用した交流活動に関する諸課題の解決や思考を深め、基礎的な知識や技術を基に、合理的に判断し、その過程を表現することができているか。(思)